

水害時の衛生対策

水害により家屋等が浸水すると、その後、細菌やカビが繁殖しやすくなり、感染症や食中毒が
おこりやすい環境になります。清掃や乾燥を行い、必要に応じて消毒をしましょう。

【3つの対策】

① 清掃

② 乾燥

③ 消毒

床上浸水の 場合

(靴を脱いで生活する場所が
浸水したとき)

床下浸水の 場合

室内の床等は食事や睡眠等生活を行う場所のため、洗浄乾燥後消毒をします。

土砂等を取り除いた後、水道水で洗い流し、
しっかり乾かすことが重要です。

* けがを防ぐため、厚手のゴム手袋、ゴム長靴（あればゴーグルも）、
ほこりを吸い込まないようマスクを付けて清掃しましょう。

清掃 と乾燥 が最も重要です

- ① 清掃：洗浄乾燥が難しいものや不要なものを片付けて、
水での洗浄や拭き取りによって汚れを取り除く。
- ② 乾燥：空気が滞留しないようによく換気する。
可能なら、扇風機等を使って強制的にしっかり乾かす。

床上浸水したときの具体例

消毒前に
清掃乾燥を。

- ・ 洗うことのできないや布団や家具（布製ソファやカーペット等）や濡れた畳等を片付ける。
- ・ 汚れた家具や床・壁等は、水で洗い流すか、雑巾で拭き取る。
- ・ 食器類や調理器具等は、水や食器洗剤等で汚れをきれいに洗い流す。
- ・ 食器棚や冷蔵庫等は、汚れをきれいに拭き取る。

床下浸水したときの具体例

- ・ 汚泥や不要なものを片付ける。
- ・ 庭木や外壁についた泥は、水で十分洗い流す。
- ・ 床下換気口のごみを取り除き、床下の風通しをよくする。
- ・ 床下はスコップや流水を用いて汚泥を取り除いた後、雑巾等で水気をなくし、扇風機等により強制的に換気し、乾燥させる。

* 乾燥が不十分だと臭いやカビの原因となります。建材等がなかなか乾かない場合は、工務店等にご相談ください。

③消毒の効果を高める 3つのステップ

step 1 消毒が必要な場所を確認する

室内(靴を脱いで生活する場所)について、消毒を行います。
清掃乾燥が不十分だと消毒の効果を発揮することができません。
消毒する場所が、清掃乾燥ができているかを確認します。

屋外、床下や車庫等は、
原則消毒不要です。

step 2 消毒液を正しく作る

家庭用塩素系漂白剤を薄めて消毒液を作ることができます。

主成分の“次亜塩素酸ナトリウム”は、大腸菌等の一般細菌やウイルスに対し、
広く殺菌・消毒・不活化効果があります。
製品に書かれている使い方と使用上の注意をよく確認してからご使用ください。

食器、流し、浴槽などには

0.02%消毒液

家具や床などには

0.1%消毒液

薄め方の例

6%漂白剤 **3.3mL**

6%漂白剤 **16.9mL**

水 **1L**

* 市販の塩素系漂白剤は5～6%が一般的です。



金属製品、繊維製品、木工製品等に使用すると、腐食や変色するおそれがあります。
“家庭用塩素系漂白剤”が使えない場所には、**消毒用アルコール**（アルコール濃度70～80%程度のもの）又は**逆性せっけん液**（10%塩化ベンザルコニウム液）を使います。

step 3 消毒液を清潔な布に浸して拭く

清掃乾燥が終わったら、消毒液を清潔な布に浸して拭きます（清拭）。
噴霧機等で吹きかけるより効果の高い消毒ができます。



家庭用塩素系漂白剤を使うとき



- 金属面や色褪せが気になる木面は、清拭後に水拭きを2回行います。
- 消毒液に5分間程度漬け込み、その後水ですすぐ方法もあります。
- スプレー容器等での噴霧は危険です。

消毒用アルコールを使うとき



原液のまま使います。
火気のあるところでの使用は危険です。

逆性せっけん液を使うとき



0.1%になるよう水で薄めて使用します。

原則、清拭後の乾拭きは必要ありません。

★消毒後は、再びよく乾燥させましょう

参考：日本環境感染学会

「暫定版ガイダンス一般家庭における洪水・浸水など水害時の衛生対策と消毒方法」

佐倉市役所 健康推進部 健康推進課
☎ 043-485-6711

✉ kenkousuishin@city.sakura.lg.jp